

《緊急事態宣言下での短縮した礼拝式順の場合》

日本基督教団札幌教会

家庭での主日礼拝の手引き

日曜日はわたしたちにとって特別な日です。「聖日」、「主日」「主の日」と呼んでいます。十戒に「安息日を心に留め、これを聖別せよ」（出エジプト 20 : 8）。とあります。「聖別する」とは「神のものとする」ということです。神のものだから、他のものと一緒にしてしまわずに、注意深く区別し、特別なものとして分けておきます。神にふさわしいように厳かに扱い、神のために用い、神にお献げします。旧約聖書での安息日は土曜日にあたりますが、教会は日曜日を安息日として守るようになりました。

教会は主イエスが復活された日曜日をこそ「主の日」と呼ぶようになりました。主の日の礼拝において、わたしたちは生きておられる神の御前に進み出ます。聖なる恐れとおののきをもって礼拝を始めましょう。

■ 主日礼拝 ■

主日礼拝を始めましょう。家庭礼拝をされる方は、可能な限り礼拝堂でささげられている礼拝に時間を合わせ、聖書と讃美歌を用意し、服装や姿勢を整えましょう。家庭での礼拝は、家庭においても教会堂でささげられているのと同じように、週報の礼拝順序に従って礼拝を献げるのがよいと思います。

< 招きの部 >

● 奏 楽

教会ではオルガンにより前奏がささげられています。神へと心を高く上げ、しばらく黙祷します。

● 招 詞（招きの言葉）

神の言葉がわたしたちを礼拝に招きます。この言葉によって、神と神の民との会見が始まります。神の御顔の前に進み出て、神との親しい交わりに入れられる特別な時間です。週報に記載されている聖書箇所を朗読します。

● 讃 美

わたしたちをご自分の民とし、礼拝に招いてくださった神に感謝して、三位一体の神の栄光をたたえる賛美をささげます。歌声は一つの声となり、礼拝する民をお互いに結びつけます。教会の歌声に声を合わせる思いで歌います。

< 御言葉の部 >

●聖書

聖書に記された神の言葉を聞きます。声に出して朗読しましょう。一人で礼拝するとしても、自分の魂にしみこませるように、ゆっくり読みましょう。

●祈 禱

祈りを献げましょう。教会堂での礼拝では司式者が皆を代表して祈ります。家庭ではだれか一人が祈ります。自由な言葉による祈りです。自分の思いを神の前に注ぎ出すようにして祈るのでよいのです。祈りの中で次のことが祈られるとよいでしょう。

頌栄と感謝・・・神をあがめ、その栄光を讃えます。礼拝へと招かれた感謝、一週間の歩みを守られ、導かれたことを感謝します。

罪の告白・・・聖なる神の御前に進み出るときに、わたしたちは本来神の御前に出るのにふさわしくない自らの罪深さを知ります。思いと言葉と行いと怠りにおいて、わたしたちは神の御心に背き、神を悲しませてきました。神を愛し、隣人を愛すること、御言葉に従う歩みをの乏しさを悔い改め、「主よ、憐れんでください」と祈ります。

御言葉の求め・・・神が与えられる聖なる御言葉を求め、神の言葉を聞き取ることができるよう、聖霊がわたしたちの魂を照らして、御言葉を心深く受け取らせてくださるよう、また聖霊がわたしたちを新しく造り変え、御言葉の実を結ぶことになるよう祈ります。

●説教

教会堂にいる思いで説教を聞く姿勢で、週報裏面の《灯台》に掲載されている説教を朗読します。一週間前の説教になりますが、教会の兄弟姉妹たちが共に生かされている御言葉として共に聞きましょう。聖書を朗読する時と同じように、声に出して読み上げてください。言葉は声に出して語られたときに、実際に存在するものになります。朗読している人も、その声を自分で聞くことになります。外から語りかける声を聴いてください。

神は説教を通してご自分がどなたであるかを知らせてくださいます。わたしたちの罪を赦し、お救いくださいます。わたしたちを慰め、生きる勇気を与え、新しいものへと造り変え、世に遣わしてください。わたしたちは神の言葉によって、まことの命を生きることができます。神がお語りくださる言葉を聴きましょう。

●祈 禱

説教を通して神の言葉が語られました。神の恵みに感謝し、恵みに応えて生きる志を言い表し、神の導きを求めましょう。また、とりなしの祈りも大切にしましょう。週報の「今週の祈りの目標」を祈るのもよいでしょう。

< 応答の部 >

●讚 美

説教の言葉に応答し、献身に向かっていく賛美です。神はわたしたちに語りかけてくださり、またわたしたちが祈りと賛美によって応答することを喜び、待っていてくださいます。頭を上げて、神への賛美をささげましょう。

●奉 献（献金）

説教が語り続け、聖餐によってはっきり表されているように、主イエスはわたしたちのためにご自分のすべてを献げ尽くしてくださいました。神の献身です。わたしたちは何をもって神の恵みに応えることができるでしょうか。神に祈り、神を賛美することが献身です。神に従い生きることが献身です。神の恵みを証しすることが献身です。

そのようなわたしたちの感謝と献身のしるしとして、献金をします。献金は「聖別袋」を用意しその中にささげ、後日主日礼拝にてささげるか、教会にお持ちくださるとよいでしょう。

●主の祈り

主イエス・キリストの献身に連なる者として、主イエス・キリストと共にそのお教えくださった祈りを声に出して祈りましょう。

< 派遣の部 >

●頌 栄

礼拝の最後に、神の国で主と顔と顔を合わせてお会いし、天使とすべての聖徒たちと共に父・子・聖霊なる三位一体の神に賛美をささげ礼拝するように、三位一体の神をほめたたえ賛美をささげます。賛美をささげ、祝福を受け神の国へと向かう旅へと遣わされていきましょう。

●祝 禱（祝福）

礼拝の最後に告げられる言葉は神の祝福の言葉です。教会ではアロンの祝福や三位一体の祝福の言葉により、祝福が告げられることが多いでしょう。

「主があなたを祝福し、あなたを守られるように。

主が御顔を向けてあなたを照らし あなたに恵みを与えられるように。

主が御顔をあなたに向けて あなたに平安を賜るように」(民数記6:24～26)

「主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、あなたがた一同と共にあるように」(コリント一 13:13)

終わりに次のように祈りましょう。

「慈愛に富み給う天の父、あなたは、御子イエス・キリストの十字架の贖いのゆえに、われらを神の子とし、罪の赦しと永遠の生命を約束されます。どうか、聖霊の給う導きにより、この週も、われら復活の望みを堅く保ち、神の慰めのうちを生きることを得させてください。父と子と聖霊の神に代々限りなく栄光があるように。アーメン！」

■ 聖餐礼典について ■

月の第一の主日、またキリスト降誕祭、洗足木曜日、キリスト復活祭、聖霊降臨祭などの特別の祝いの日には、教会の礼拝において聖餐の礼典を執り行います。また聖餐の食卓は各家庭にまで広がります。教会は初めから教会堂にまで来られない人を訪ねて聖餐を行って来ました。牧師が訪問して家庭での礼拝を共にし、聖餐礼典を執行します。小林克哉牧師来札する機会に合わせてになりますが、遠慮なく申し出てください。

主にありて

*この手引きは小泉健牧師（東京神学大学教授 [実践神学]・日本基督教団成瀬が丘教会）のご厚意により成瀬が丘教会の資料を参考にさせていただきました。